

NO. 400
2023.2・3

CENTER NEWS



目 次

組合員代表者交代にあたり	長谷川 剛…………… 1
1・2月定例理事会	…………… 2
令和4年度 三団体合同技術講演会開催報告	中山 義久…………… 3
センターニュース400号記念に際して、私とセンターニュース……………	4
便利アプリ（無料）を紹介	……………10
委員の独り言	西野 真海……………11
編集後記	荒谷 賢一……………12

表紙写真 大募集！

センターニュースの表紙にあなたの撮った写真を載せませんか？
写真とその表紙の説明（撮影した状況やその物の説明、言いたい事など
なんでも構いません）を付けて info@ks-dositu.or.jp にお送り下さい。
採用された方にはちょっとしたお礼もございます。
皆様のご投稿をお待ちしております。

表紙説明

センターニュース400号の表紙写真は、過去の行事・イベント、研修会と試験機器、および「400」に関わるものを集めました。そして「400」の数字を理事、広報小委員会委員、職員、これまでセンターニュース編集に関わって頂いた方々の顔写真で作りました。ご協力頂きました方々に深く御礼申し上げます。

最後に、本号表紙作成に高村憲明理事の多大なるご尽力を頂き、深謝申し上げます。

(写真・文：中山 義久)



組合員代表者交代にあたり

株式会社メーサイ
代表取締役社長 長谷川 剛

今期より株式会社メーサイ代表取締役社長に就任しました長谷川と申します。
いつもセンター様にはたいへんお世話になっています。

この業界に働きはじめ約30年近くなります。阪神・淡路大震災の前から現場で色々な事を勉強させていただき、その後営業畑を歩いてきました。職人の現場技術、また人としての教えなどたくさんの事を学びました。時間の経過とともにお世話になった職人の引退を見て寂しい思いです。なかなか若い方がこの業界を知ることがなく、新入社員の獲得も難しい状況です。世間では働き方改革を掲げ効率を重視し、コロナ禍の中、テレワークが推進され現場を経験する時間が少なくなっているように感じます。私が就職した時代、バブルとは言え、建設業は3Kの代表として扱われたものです。私たちメーサイは世間の流れに逆行するわけではありませんが、現場第一主義を掲げ日々業務に精進しています。ベテランから若手への技術継承を急務として若者たちに指導する日々が続きます。

春秋は気候に助けられますが、ここ数年夏は猛暑になり熱中症の危険と隣り合わせです。お客様の安全大会にも参加しますが、ほぼ内容が熱中症対策と埋設物破損に伴う対策がほとんどです。逆に言えばこの問題は永遠のテーマかもしれません。現場での正確な掘削・サンプリング・計測を行うことがデータへの信頼性に繋がります。やはり熟練した職人の賜物と思います。作業環境が直ぐに改善されるとは思いませんが我々の思いが1日でも早く現場に届いて欲しいと切に願います。

また現場のデータをまとめる技術の方々も夕方に現場状況が伝えられ、この時間からデータ整理が始まります。この段階で定時を越すこととなります。この時代SNSが普及し、各自の作業環境は日々変化しています。DXを推奨し業務方法をアップデートする必要があると思います。これからの時代、もっと複雑な現場また高度な技術力を求められる業務が増えるでしょう。だからこそ、ベテラン・中堅・若手がそれぞれの持ち味を出しながら業界の責任を全うしていく必要があります。

私は「まず行動すること」を常に言い続けます。行動しないことが最大のリスクだと考えます。失敗から学ぶこともたくさんあり、その経験を糧に次の機会をものにして欲しいと思います。この仕事に誇りを持ち、社会貢献に参加している意識を高く持ち続け、これからもSDGsの理念を継続し、この業界で働く人々に光が当たることを願います。

1月 定例理事会

Regular board of directors

令和5年1月31日（火）15時00分より、大阪キャッスルホテル会議室にて理事10名が出席して開催した。

定款の定めにより、寺西理事長が議長に就任し議事進行を行った。

【報告事項】

- 1) 一般経過報告
12月の会議・会合・行事について報告した。
- 2) 12月分事業報告の件
- 3) 令和4年度第3四半期（4月～12月）実績報告の件
- 4) 令和4年度決算予測について
- 5) 次期小委員会委員応募状況について
- 6) その他の件

【審議事項】

- 1) 組合職員給与改定について
- 2) 組合員脱退申し出の件
- 3) 新顧問について
- 4) その他の件

2月 定例理事会

Regular board of directors

令和5年2月20日（月）15時00分より、大阪キャッスルホテル会議室にて理事10名が出席して開催した。

定款の定めにより、寺西理事長が議長に就任し議事進行を行った。

【報告事項】

- 1) 一般経過報告
1月の会議・会合・行事について報告した。
- 2) 1月分事業報告の件
- 3) 令和4年度利益予想について
- 4) その他の件
(1) 次期小委員会委員応募状況について

【審議事項】

- 1) 組合職員給与改定について
- 2) 令和4年度概算剰余金処分（案）及び職員期末手当（案）について
- 3) 中山専務理事の退任慰労金について
- 4) 令和5年度（第44期）収支予算（案）について
- 5) 令和4年度設備投資実績及び令和5年度設備投資について
- 6) その他の件
(1) 道路側フェンス改修について

令和4年度 三団体合同技術講演会開催報告

専務理事 中山 義久

去る令和5年2月9日、標記講演会が開催されましたのでご報告いたします。

今年度のテーマは「『地質リスクマネジメント』について知る」と題して、下記に示すプログラムで行われました。今年の開催形式はハイブリット形式で行われ、会場とwebを合わせ計178名の参加者がありました。

- ・ 大津先生からは、地質リスク低減の根幹として、情報が意思決定に反映されてはじめて価値を持つことの意義、さらにそれら情報を扱う技術者、特に若者たちの人材育成が今後更に重要になると説明がなされました。
- ・ 増田様は、地質リスクの背景と検討経緯、地質リスク低減のための調査・設計マニュアル、統計的手法を用いた地質リスク評価などを詳しく説明して頂きました。
- ・ 小松様は統計的分析のねらいと地質分類、地質分類別の変動実態、支保・補助工法の変動要因、地質調査の精度向上に向けた取組事例について、丁寧に説明されました。



大津宏康先生（松江高専）



増田安弘様（国土交通省）



小松慎二様（応用地質）



小宮国盛理事長（関西協会）



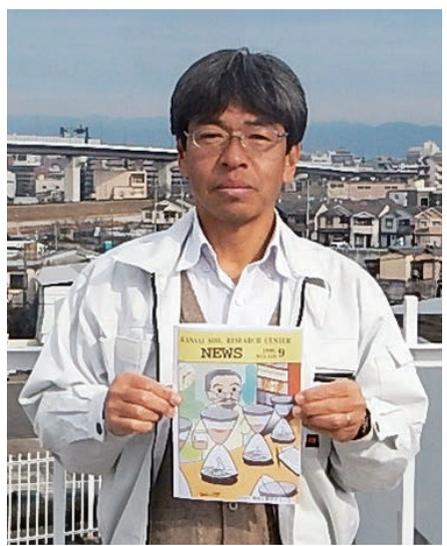
寺西一哲理事長（センター）



会場

講演プログラム

時 間	内 容	講 師
開会挨拶 (10分) 14:00～14:10	開 会 挨 拶	(一社) 関西地質調査業協会 理事長 小宮国盛様
講演① (質疑を含み60分) 14:20～15:20	地盤/地質リスクマネジメント概論	松江工業高等専門学校校長 京都大学名誉教授 大津宏康様
休憩 (10分) 15:20～15:30		
講演② (質疑を含み60分) 15:30～16:30	近畿地方整備局における地質リスクマネジメントの取り組み	国土交通省近畿地方整備局 近畿技術事務所長 増田安弘様 応用地質株式会社 小松慎二様
閉会挨拶 (10分) 16:30～16:40	閉 会 挨 拶	(協) 関西地盤環境研究センター 理事長 寺西一哲様



株式会社関西土木技術センター

荒谷 賢一

1999年9月号

他の委員が就職や結婚を挙げそうなので、私は”父親1年生”となった年月を選択しました。同月に娘が、2年後に息子が誕生するのですが、やはり人生で初めてという意味では一人目が特に印象に残りません。

1999年というと、ノストラダムスの大予言の「1999の年、7の月、空から恐怖の大王が降ってくる。…」との下りが思い浮かびます。私が小学生の頃には本当に信じていて、自分の人生は30数年までと思っていましたが、2ヶ月後にはこの世に自分と同じDNAを持つ人間が誕生するのですから、この大予言は何だったのでしょうか。逆に、この7年前の阪神淡路大震災のほうが、関西にとってはある意味『ハルマゲドン』だったかと思います。

さて、この年月発行のセンターニュースを拝見しましょう。NO.158号です。裏表紙の案内地図には守口試験室も示されています。守口JCTのすぐ北側で、入り口が狭くて少しスロープがあり車での進入が難しかった記憶が残っています。ページをめくると、巻頭言、定例理事会の議事内容、全国の土質試験協同組合の紹介として関東土質試験協同組合、国際地盤工学会への参加体験談、研修旅行報告、推薦図書コーナー、なげに編集後記の構成となっています。

国際地盤工学会の体験談では、韓国ソウル市で開催された第11回アジア地域会議に参加された現専務理事の中山氏が、「技術課」の所属で執筆されています。日程を同じくして参加された現顧問の西形（当時助教授）先生との2ショット写真が印象的ですが、両雄ともお若いですね。西形先生に至っては、私が大学生で土質試験実習等を教えて頂いたときと何ら変わらない姿が見受けられます。

また、守口試験室所属のセンター職員が執筆された研修旅行報告では、北淡町震災記念公園での野島断層の写真が掲載されています。発生から7年が経ち復興も進みだした時期でもあることが窺えます。

しかしながら、冒頭のがが娘は、この震災は昔話でしかない。つまり、50代半ばの私にとっては、東京オリンピック開催や東海道新幹線開業と同じようなものだと痛感させられます。その娘も昨年に社会人1年生となり、年月が経つのも早い今日このごろです。「400号」と一言で言いますが、これだけの歴史があると思うと、これまで携わってきた方々のご尽力には多大なる敬意を表します。

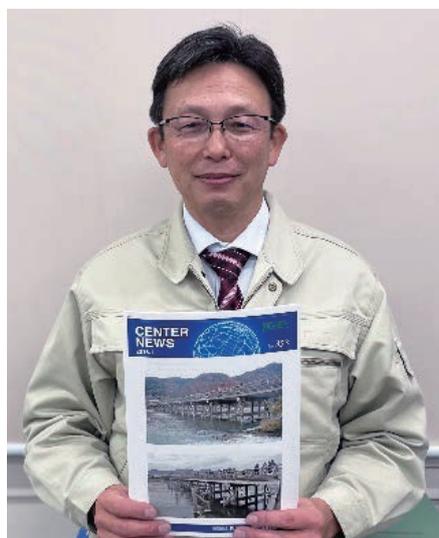


中央開発株式会社
杉原 普作

センターニュース発刊400号、おめでとうございます。

私とセンターニュースということで、自分の人生の節目である結婚した月に発刊したNo.139号（1998年2月）を紹介したいと思います。今よりページ数、文字数が多いことも驚きましたが、記事の中で「ISO9000sの認証取得」のことが書かれていました。今では当たり前になったISOによる品質保証も当時は新しいものとして、何をどう対応すればいいのか頭を悩ませていたことを思い出します。また長野冬季オリンピックの最中であったことも書かれており、あれからもう四半世紀過ぎたのかと、考えさせられます。

今後、500号、600号...と続いていくと思います。私も広報委員会の一員として、陰ながらお手伝いできれば幸いです。1000号を目指し、頑張りましょう！



株式会社メーサイ
加藤 博之

センターニュース発刊400号、おめでとうございます。

私とセンターニュースということで、初孫が生まれた年月の第353号を紹介したいと思います。

第36期臨時総会開催報告の中に、講演会について記載されていました。演題「関西広域地方計画」に『この国土を、子や孫、さらにその次の世代へと引き継いでいく事が、今日生きる我々の世代の責務である。これまで積み上げてきた歴史・伝統・文化や、我が国の国土を有する特性・ポテンシャルを踏まえ、短期的な視点に陥ることなく、国民の間で夢を共有した上で、未来を切り開いていくために中長期的なビジョンを描いていく必要がある。』（原文）と紹介されてました。技術の伝承もそうですが、いかに次へ引き継いでいくのかが、今の我々の使命でもあるのかなと感じるところです。センターニュースも400号は歴史の積み重ねの結果であります。さらに次号へ次号へと引き継がれていく事を楽しみにしたいと思います。



株式会社インテコ
中谷 英之

2018年より広報小委員会にて、センターニュースに携わっております。

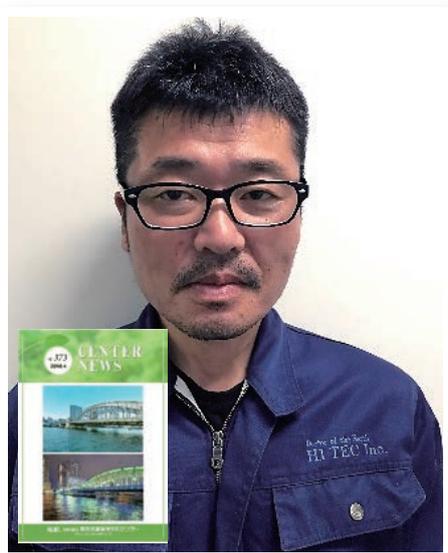
今から16年ほど前の2006年（No.238）に、ひっそりと私の他愛のない記事を掲載していただきました。記事を書いた経緯をさっぱり覚えていません。

この当時のセンターニュースは“わが街”や“組合員技術者紹介コーナー”など、他社組合員さんとのコミュニティが強かったのですね。

それから10年後の2016年（No.358）に、センター委員会新メンバー紹介として掲載されました。

当時の活性化委員会から、早7年。

今後ともよろしく願いいたします。



ハイテック株式会社
曾根 直樹

センターニュース発刊400号、心よりお慶び申し上げます。

私は、2018年4月より広報小委員会に携わっており、この時に発刊したNo.373号（2018年4月）をたまたま見ていると、弊社の社長が1ページを超える熱い文章を掲載しているのを発見しました（たくさん書けるなど感心しました）。バックナンバーを見るのも楽しいですね。

このころ、第1回目の委員会の集まりがあり、非常に緊張して会場に向かっていたことを思い出しました。

センターニュースは、たくさんの組合員の方々に携わって頂いて成り立っており、今後も末永く発刊できるよう、広報委員会の一員として頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。



株式会社日建設計
長谷川 智昭

センターニュース発刊400号、おめでとうございます。

私とセンターニュースということで、私は”センターニュース初投稿”となったNo.267号（2008年10月）を紹介したいと思います。当時のセンターニュースと現在のそれと構成は、ほぼ略同じであります。組合各社の役員様から若手社員様まで、それぞれの自己紹介や近況報告、人生に役立つアドバイス等が、思い思いの趣向でまとめられております。

ただ、最近のセンターニュースには、センターの行事紹介や近況紹介が減ってきているのかな？と改めて感じた次第です。広報委員としてセンターの情報発信を出来るように陰ながらお手伝いできればと思っています。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



株式会社キンキ地質センター
高柳 昂

センターニュース記念すべき400号の発行、誠にありがとうございます。

私にとって思い出に残るセンターニュースといえはキンキ地質センターに入社した令和元年6・7月発行の380号になります。元号が変わると共に未経験の業界に転職した私にとって、センターニュースの内容は未知でした。若手技術者による室内試験体験会のレポートを見ても初見の言葉が並び、やっていけるか不安になったのをよく覚えています。そこからセンターニュースの発行と共に少しずつ歩みを進めております。広報小委員会の委員として、次の目標は500号ですが、1号ずつ着実に積み上げていければと思っています。

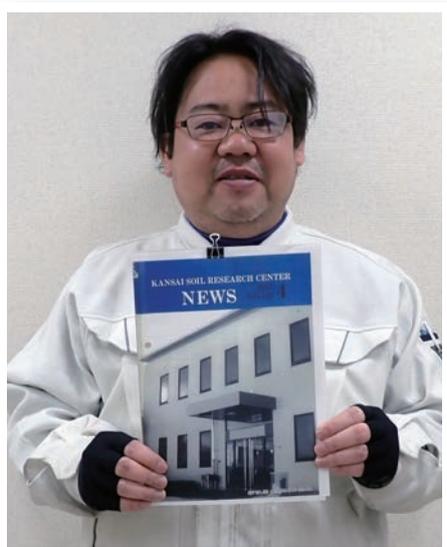


国際航業株式会社
長谷川 友祐

センターニュース記念すべき400号の発行、心よりお慶び申し上げます。

私とセンターニュースということで、自分が誕生した1992年11月号を選びました。1992年はバルセロナ五輪で競泳の岩崎恭子さんが14歳で金メダルを獲得し「今まで生きてきた中で一番幸せです」と有名な一言を残した年です。そんな年の11月号のセンターニュースは、表紙がイラストで飾られており、10月の定例理事会や主な会議・会合・行事、試験実績、組合福利厚生事業の案内といった内容から、投稿コーナー（雑感）や組合が収集した外国雑誌（地質調査関連）の目次リストといった今とは少し変わったラインナップになっていました。

組合員の投稿や情報の共有といったコミュニティは昔から代々紡がれてきたものだと知ることができました。自分の生前から始まり、何十年という歴史を重ね400号という記念すべき節目に携われたことを大変嬉しく思います。これからも末永く続いていくように少しでもお力になればと思っています。



地盤技術室
梅本 学

センターニュース 400号の発行、おめでとうございます。私がセンターに入所した1997年4月の第129号を紹介したいと思います。

内容は月ごとの部門別試験実績表や新入職員の紹介、私の趣味、推薦図書コーナー、わが社・わが街などで、今と違いB5サイズでページ数が20ページあり、毎月の発行だったので当時の委員の方の大変さが、現在センターニュースに携わることで初めてわかりました。

摂津試験室が出来た年に入所した私は守口試験室に勤務していて、摂津試験室へ試験の器具や道具をトラックで運ぶ引っ越し作業をしたことを覚えております。

次は500号の発行を目指して広報委員会の皆様と協力して頑張っていきたいと思っています。



協同組合関西地盤環境研究センター
西野 真海

センターニュース400号の発行、おめでとうございます。

私を正社員登用していただいた令和元年6月が心に残っております。その時のセンターニュースが令和元年6・7月発行の380号になります。380号には、全地連「技術フォーラム2018」の粒度（沈降分析）試験の測定方法の検討の記事が記載されていました。そこから約4年経過しており、今では沈降分析の自動計測の実用化を目指して研究しております。私も気づけばセンター勤務4年が経とうとしており、月日の流れはあっという間に過ぎていくなあと実感しました。

これから様々なことが変化しているかと思いますが、次は500号記念を目指して、センターニュースは変わらず発行が続けられるように、センター一同で努めていきたいと思っています。



便利アプリ(無料)を紹介

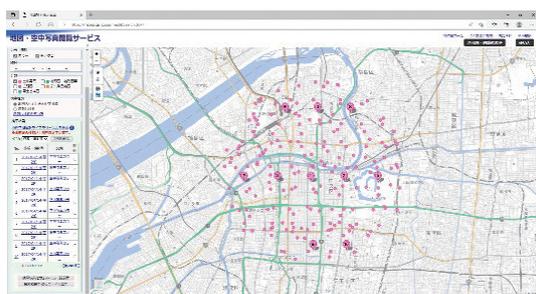
① ロケスマ

コインパーキングからコンビニ、ファミリーレストラン等、様々なジャンル・カテゴリーの店舗を地図上で調べられる。



② 地図・空中写真閲覧サービス

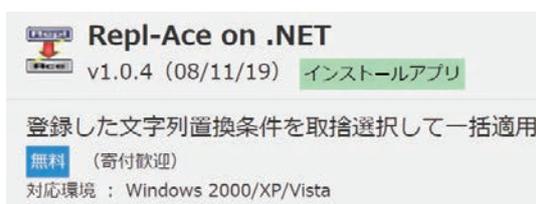
任意の場所の空中写真や地形図・地勢図等を閲覧できる。空中写真については、1940年代の古いものまでダウンロードできるので、土地の利用履歴等の参考資料となる。



③ Repl-Ace on .NET

正規表現に対応した文字列置換ソフト。登録しておいた複数の置換条件を、置換実行時に取捨選択して一括適用できるのが特長。置換条件は、検索文字列、置換文字列、正規表現の使用・不使用といった項目の組み合わせをセットにして、“置換計画”と呼ばれるリストへ複数追加できる。置換実行時には、登録された置換条件をリストの上から順に処理していく仕組みで、リスト内の順番は入れ替え可能。

電子納品の TEST フォルダ作成時に利用できます。



★皆様も普段利用しているアプリを紹介してみてもはいかがでしょうか？

助かる方がきっといるはずです。投稿が集まれば不定期ですが、紹介させていただきます。

アプリを紹介頂ける方は事務局、梅本 (umemoto@ks-dositu.or.jp) までお送りください。

委員の独り言

お疲れ様です。センターの西野です。1月24日から25日にかけて大寒波の襲来がありました。この大寒波は10年に1度の冷え込みだったらしいですね。25日の夜中には雪が降っていたようで、朝には止んでいましたが車に雪が積もっていたので、かなりの降雪量があったと予想できました。全国各地では、空の便では計485便欠航や、JRでは一部運転取りやめ、高速道路は広い範囲での通行止めなど様々な交通影響がでました。私の地元では、積雪にはほぼ無縁ですが、東北地方や北海道は毎年積雪対策をしているのだと思うと、大変だと感じると同時に備えることの大切さを実感しました。これは、何事にもいえることで危険に対してできる範囲の対策をすることで実際に起こってしまっても、被害を最小限に抑えることができます。私は実際に痛い目に遭わないと学習できない人間なのですが、みなさまは私みたいにならないように、日頃から【備える】ということを中心掛けてくださいね（笑）。

続きまして、最近は休日にAmazonプライムビデオで映画を見ております。その中で「今日も嫌がらせ弁当」という映画を見ました。あらすじは八丈島に住むシングルマザーのかおりと、2人娘の次女の双葉をメインとし、双葉は絶賛反抗期中でかおりと口を聞こうともしません。そんな娘に対して、いやな態度をとるならいやな態度で返すと宣言し、キャラ弁卒業を断言していた双葉に毎日キャラ弁を手渡していやがらせをするという物語です。キャラ弁のバリエーションがすごく多くて笑いあり、泣きありですごく楽しい映画でした。みなさまも時間があればぜひご覧いただきたいです。

ひと昔は映画を見るにもツタヤやゲオなど、お店に行ってレンタルしなければならない時代がありましたが、今はサブスクリプション方式で、見たいと思っても見ることができなかった映画やリアルタイムで見逃したアニメが視聴できるなど、様々なサービスが出来て非常に便利な世の中になったと思います。その反面、外に出ることが少なくなり休日は家に引きこもることが多くなってしまいました。なので、アウトドア系の趣味も取り入れていきたいと思っております。センターニュースをご覧いただいた方でおすすめのアウトドア系の趣味があれば、ぜひご教示ください。

（地盤技術室 西野 真海 記）

編集後記

今号は節目の400号に達しましたので、記念号として表紙や内容に普段とは違う試みをしています。

表紙の「400」の文字を型取っているのは、現理事の皆様、センター職員、現委員、ならびに歴代の委員の方々の顔写真です。お忙しいところ、快くご協力して頂き大変助かりました。この場をお借りして、感謝の意を表したいと思います。

一方、各委員に400号記念として、自分の記念日とその年月に発行されたセンターニュースとを関連付けて、自由に書いてみました。読者の方々に一つでも心に刺さる記事があれば、我々も原稿書いた甲斐があったところですが如何だったでしょうか？

その記事にも少し触れましたが、私が取り上げたNO.158号（1999年9月）は表紙や目次を除いて全15ページです。現在は、通常この半分の8ページ前後で、それも基本隔月です。NO.158号の時期は毎月でしたので、編集に関わられた大先輩方の偉大さは計り知れないと痛感しました。当時はインターネットもまだまだ普及しておらず、書類や資料は紙媒体（FAXが全盛期？）とアナログ的な部分が多数残っていました。このため、当時のセンターニュースにも色々な情報をこの冊子に集約する必要があったとしても、近年は内容や情報量に頭打ちしていることは否めないです。その中でも、当委員会は、皆様に少しでも多くの方々に、お忙しい勤務の合間にでも、“手に取って”、“コーヒープレイクのお供”として読んで頂ける内容にしたいと、日夜アイデアを考えております。皆様方からのご意見やご要望を頂けると、我々も非常に参考になると思います。試料搬入時等の立ち話でも結構ですので、センター職員に一言言って頂けると幸いです。

引き続き、これからもよろしくお願ひします。

（広報小委員会 委員長 荒谷 賢一）



組合員・賛助会員名簿

【組合員名簿】

(50音順)

会社名	電話番号	会社名	電話番号
株式会社 アテック吉村	(072)422-7032	株式会社 タニガキ建工	(073)489-6200
株式会社 池田地質	(06)6797-2280	株式会社 地域地盤環境研究所	(06)6943-9705
株式会社 勇コンサルタンツ	(06)6306-6907	株式会社 地圏総合コンサルタント 四国支店	(0897)33-3123
株式会社 インテコ	(0742)30-5655	中央開発 株式会社 関西支社	(06)6386-3691
株式会社 エイト日本技術開発 関西支社	(06)6397-3888	中央復建コンサルタンツ 株式会社	(06)6160-1121
株式会社 オキコ コーポレーション	(06)6881-1788	株式会社 東京ソイルリサーチ 関西支店	(06)6384-5321
応用地質 株式会社 関西事務所	(06)6885-6357	株式会社 東建ジオテック 大阪支店	(072)265-2651
川崎地質 株式会社 西日本支社	(06)7175-7700	東邦地水 株式会社 大阪支社	(06)6353-7900
株式会社 関西土木技術センター	(075)641-3015	土質コンサル 株式会社 大阪事務所	(072)634-6373
株式会社 基礎建設コンサルタント	(088)642-5330	株式会社 中堀ソイルコーナー	(06)6384-9069
基礎地盤コンサルタンツ 株式会社 関西支社	(06)4861-7000	株式会社 日さく 大阪支店	(06)6318-0360
キタイ設計 株式会社	(0748)46-2336	株式会社 日建設計	(06)6203-2361
株式会社 キンキ地質センター	(075)611-5281	株式会社 日本インシーク	(06)6282-0310
株式会社 KGS	(072)279-6770	日本基礎技術 株式会社 関西支店	(06)6351-0562
株式会社 建設技術研究所 大阪本社	(06)6206-5700	日本物理探査 株式会社 関西支店	(06)6777-3517
興亜開発 株式会社 関西支店	(072)250-3451	ハイテック 株式会社	(06)6396-7571
株式会社 興陽ボーリング	(06)6932-1590	株式会社 阪神コンサルタンツ	(0742)36-0211
国際航業 株式会社 関西事業所	(06)6487-1111	阪神測建 株式会社	(078)360-8481
株式会社 国土地建	(0748)63-0680	株式会社 ビュー設計	(088)665-7360
サンコーコンサルタント 株式会社 大阪支店	(06)6121-5011	復建調査設計 株式会社 大阪支社	(06)6392-7200
有限会社 ジオ・ロジック	(072)429-2623	双葉建設 株式会社	(0748)86-2616
株式会社 白浜試錐	(0739)42-4728	報国エンジニアリング 株式会社	(06)6336-0228
株式会社 ソイルシステム	(06)6976-7788	株式会社 メーサイ	(06)6190-3371
株式会社 大同ソイル	(0745)63-1850	明治コンサルタント 株式会社 大阪支店	(06)7178-1659
株式会社 ダイヤコンサルタント 関西支社	(06)6339-9141	株式会社 ヨコタテック	(06)6877-2666

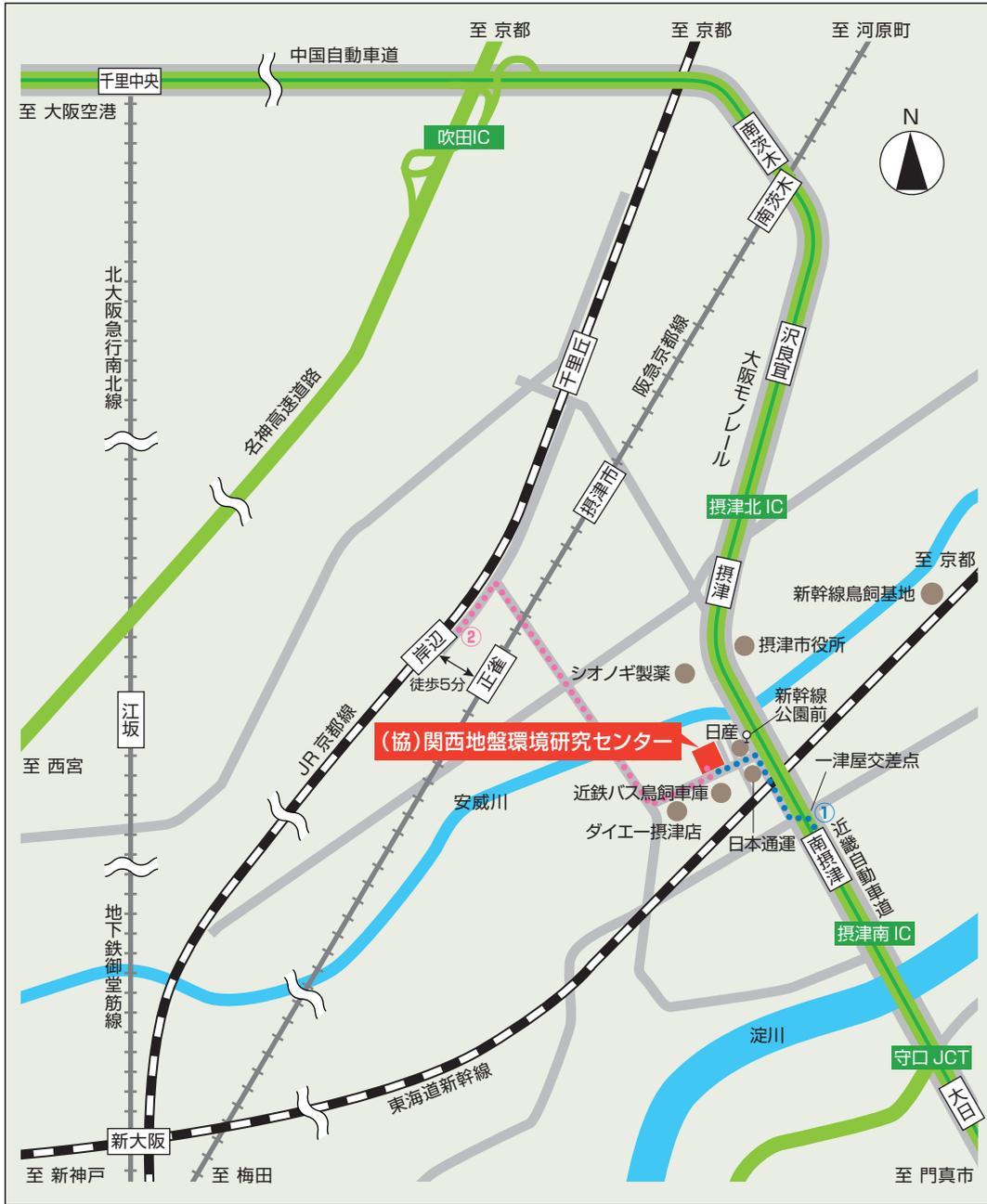
【賛助会員名簿】

会社名	電話番号	会社名	電話番号
株式会社 アサノ大成基礎エンジニアリング 関西支社	(06)6456-1531	株式会社 総合技術コンサルタント	(075)312-0653
株式会社 アーステック東洋	(075)575-2233	株式会社 ソルブレイン	(06)6981-3330
株式会社 JFDエンジニアリング	(06)6531-3326	株式会社 兵庫コンサルタント	(0799)28-1074
株式会社 創研技術	(088)652-0077		

発行 協同組合 関西地盤環境研究センター
〒566-0042 摂津市東別府1丁目3番3号
TEL 06-6827-8833 (代)
FAX 06-6829-2256
e-mail tech@ks-dositu.or.jp

編集 広報小委員会
編集責任者 中山義久
印刷 千里丘印刷

<https://www.ks-dositu.or.jp>



①南摂津駅(大阪モノレール)より徒歩12分 ②JR岸辺駅よりタクシーで約10分

新大阪駅より地下鉄御堂筋線に乗り千里中央駅でモノレールに接続、千里中央駅から南摂津駅まで21分

協同組合 関西地盤環境研究センター

〒566-0042 大阪府摂津市東別府1丁目3-3

TEL.06-6827-8833(代表)

FAX.06-6829-2256(地盤技術室)

<https://www.ks-dositu.or.jp>